

報告会資料

みんなつながる 地域交流会

～市民活動等報告会～

令和8年3月1日（日）

14：00～16：00



主催：庄原市

共催：庄原市自治振興区連合会

目次



地域包括ケアの事例発表

- なんずかんずつながる会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 帝釈自治振興区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
- 西城自治振興区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

令和6年度 自治振興区活動促進補助金 実績報告書

- ドローンサッカーin 西城～次代を担う人材育成と多世代交流を目指して～
西城自治振興区・・・・・・・・・・・・・19
- 交流とにぎわいの暮らしの場づくり（住民の縁側）整備事業（高幸せ具現化事業）
庄原市高自治振興区・・・・・・・・・・・・・26
- パーティシェード活用による行事・イベント活性化事業
庄原市比和自治振興区・・・・・・・・・・・・・28
- 移動手段検討・実証実験事業
庄原市総領自治振興区・・・・・・・・・・・・・29

令和6年度 まちづくり応援補助金 実績報告書

- 市内中高生・大学生・地元企業・庄原交流会
NPO 法人東海つばめ学習会広島支部・・・・・・・・・・・・・31
- 一コドモとオトナの遊び場づくりー
0歳からのファミリーコンサート／講演会「命の参観日」開催による子育て支援事業
東城みらいプロジェクト・・・・・・・・・・・・・44
- まちづくりコンテンツ推進事業
東新会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46



地域包括ケアの 事例発表



なんずかんずつながる会

(高野地域協議体)

活動報告



庄原市上高自治振興区 奥田久美子

なんずかんずつながる会

地域で暮らし続けるための支え合いを生み出す(仕組みを作る)場

メンバー構成員

- ・上高自治振興区
- ・下高自治振興区
- ・高野地区民生委員児童委員連絡協議会
- ・老人クラブ連合会
- ・特別養護老人ホーム故郷－高野(東輝会)
- ・庄原市社会福祉協議会高野地域センター
- ・庄原市役所高野支所・庄原市地域包括支援センター高野



開催頻度： 毎月1回

2

なんずかんずつながる会のめざすもの

目的： 住み慣れた我が家・地域で、地域みんなが、5年先・10年先も安心して暮らし続けることができる地域にする

目標： 目的がぶれないために、毎回、会の初めに唱和しています

「地域課題(困りごと)を共有し、みんなを巻き込み(まとめ)ながらみんなで検討し、できることから解決していく。
住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができる、
高野にする」

3

なんずかんずつながる会の活動紹介

- ・平成28年度…高野地域協議体「なんずかんずつながる会」発足
- ・平成29年度…“たかのなんずかんず便利帳 初版”作成
- ・平成30年度…“たかのなんずかんず便利帳 第2版”作成
- ・平成31年度…“防災マニュアル”～災害に備えるために～
総合編・大雪対策編 作成
- ・令和元年度…“情報救急シート”の見直し 配布
- ・令和3年度…困りごとアンケート実施
- ・令和4年度…“たかのなんずかんず便利帳 第3版”作成
- ・令和4年度～…草刈り支援 継続(困りごとアンケートからの取り組み)
- ・令和5年度…地域交通について検討を始める(困りごとアンケートから)



4

近年の取り組みについて 1

- ◆ 地域交通について取り組みを進める(令和5年度より)
困りごとアンケートの中で「草刈りに困る」の次に多かったのが、
「交通手段が少なく、買い物、通院に困る」の声でした
- ◆ そこで、高野町内を走っている「おでかけわゴン」の利用者数が減少
していることから、今ある制度を見直してみよう
「住民の皆様がより便利に使いやすく、より暮らしやすくなるための
改正ができないだろうか」
と考え、取り組みを進めていった



5

近年の取り組みについて 2

- ◆ 地域への改正に向けた取り組みの説明
 - ・まずは10自治会長さんへ全体会で取り組みについて説明
 - ・各自治会毎に役員さんや、地域の方々への説明会の開催
「どのようになったら利用しやすいか」、「どんな形で利用できたらよいか」など、
多くのご意見をいただく場を何度も設定
 - ・地元の交通業者とも、改正に向けて協議を重ねていった
- ◆ その結果
 - ①目的地(降車場所)の拡大 — 10カ所の増設(サロン会場など)
 - ②運行の便数の増便 — 週3日(5往復便)⇒毎日運行・午後便追加(12往復便)
 - ③利用料金の改正 — 1乗車300円 ⇒1乗車200円(俵原地区除く)
 以上、3点の改正ができた



6

「おでかけわごん」を利用してもらう工夫

◆ 改正はできたけれど・・・

地域の方々に利用してもらえないと意味がない

そのためには、利用してもらう工夫が必要

- ・自治会毎に、利用を呼びかけ、改正点を紹介のための説明会を開催

- 中心部移動支援(たすけっと)
- 休憩処の設置(5箇所)
- 連絡代行事業所(協力事業所11か所)
- イベントづくり

中心部の移動支援
たすけっと



7

イベントづくり

◆ イベントづくり

①上高自治振興区・下高自治振興区デイホームで利用

- ・きょうもいこう家(上高) 毎月1回
- ・きらく食堂(下高) 年4回



②ショッピングツアー これまで上高・下高各4回実施

おでかけわごんで振興区まで集まり、乗り合いタクシーで「庄原Big」や「しまむら」などでお買い物して、帰りは、再びおでかけわごんで自宅へ。



8

「おでかけわごん」の実績・これから

● 「おでかけわごん」の実績 改正により利用者増加

- ・令和6年以前の利用者 月29人～46人
- ・令和7年1月改正後 月76人～174人(3倍～4倍に)

● 「おでかけわごん」の今後の活用検討

①貨客混載(市の制度改正が必要)

- ・買い物支援(商店に注文した商品を自宅に届ける)
- ・フードデリバリー(飲食店の料理等を自宅に届ける)
- ・農産物の出荷(道の駅への運搬)高齢者の生きがいづくり

②学校との連携

- ・地域交通を学習する機会の提供
- ・教育現場での利用

③今後も住民からご意見をいただき、より利便性を高めていく

みんなで、高野ならではの地域交通「おでかけわごん」を作っていく

9

「なんずかんずつながる会」の今後の取り組み



★ これまでの取り組みの継続

- ・草刈り支援(地域に根付くあり方の検討)
- ・移動支援
- ・買い物支援
- ・なんずかんず便利帳改訂版(第4版)の作成

★ 町外へ出ている子供(家族)と本人・地域のつながり

10

おわりに



なんずかんずつながる会では、これからも地域の困りごとを地域のみなさんと共有し、「このまちに住んでよかった」と、思えるまちづくりをめざし、小さなこと、できることから形にしていきます。

11



ご清聴ありがとうございました



『ここ(帝釈)で 安心して暮らす』



～帝釈版：地域包括ケアシステム～

令和2年 1月26日
令和8年3月1日(改訂版)

帝釈自治振興区



帝釈地域の現況 ～高齢化状況 比較～ 2020年7月末日

人口		全体 438人 (男: 203人 女: 235人)	
2020年7月末	65歳未満	①65歳以上 256人	②75歳以上 147人
	①65歳以上 256人	高齢化率: 58.4%	
	②75歳以上 147人	33.6%	約3人に一人
2025年12月末	65歳未満	①65歳以上 224人	②75歳以上 137人
	①65歳以上 224人	高齢化率: 64.5%	
	②75歳以上 137人	39.5%	約3人に一人
	②80歳以上 89人	25.6%	約4人に一人

2

地域包括ケアシステムとは

「住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを
できるだけ続けたい」という想いを
支えることのできる体制を
充実させること



3

帝釈地域の代表的な取り組み現況

①医療系サービス

- ・庄原赤十字病院地域巡回診療車（1週間に2回帝釈6か所で診療）
- ・西城市民病院訪問看護

②介護サービス

- ・もみじの丘帝釈（宿泊・通い・訪問介護）

③保健・福祉系サービス

- ・移動販売車
- ・緊急通報装置
- ・配食サービス
- ・民生委員の訪問
- ・一人暮らし高齢者等巡回相談員の訪問
- ・市民タクシー
- ・予約制バス（MaaS）
- ・自治振興区（地域マネージャー）の訪問

④生活支援および介護予防

- ・高齢者応援隊事業
- ・見守り活動（見守る人、見守られる人を定めて）
- ・小地域サロン
- ・ふれあい弁当（年2回）
- ・料理教室
- ・シルバーリハビリ体操
- ・グラウンドゴルフ、ゲートボール
- ・健康感謝まつり
- ・もみじまつり など



4

“ここ(帝釈)”で暮らしていくために ＜自分が心がける5つのこと＞



1. 普段から、ご近所づきあい、地域づきあいを大切にし、つながっておく
2. ご近所や友人とつながるためにも、社会参加・運動・栄養をこころがける
3. ご近所や友人などに「ちょっと応援して」のひと言を、自分から言う
4. 別居している家族等と定期的に連絡をとりあう(できるだけ週1回以上)
5. 自分と関わりの深いご近所や友人と、別居している家族をつなげておく

5

自分だけでは解決できない「う～ん、困った」・・・その時は！

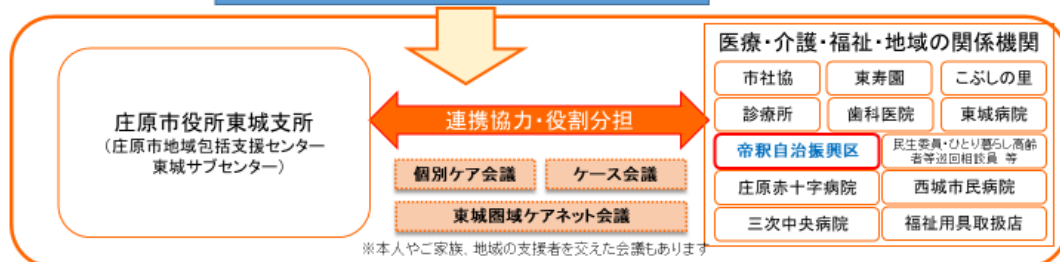
自分に… 身内に… ご近所に… **困りごとが起こったら**

直接

誰かを
介して

民生委員・ひとり暮らし高齢者等巡回相談員
自治振興区・支部(自治会)・ご近所・友人…

帝釈包括ケアネット連絡会



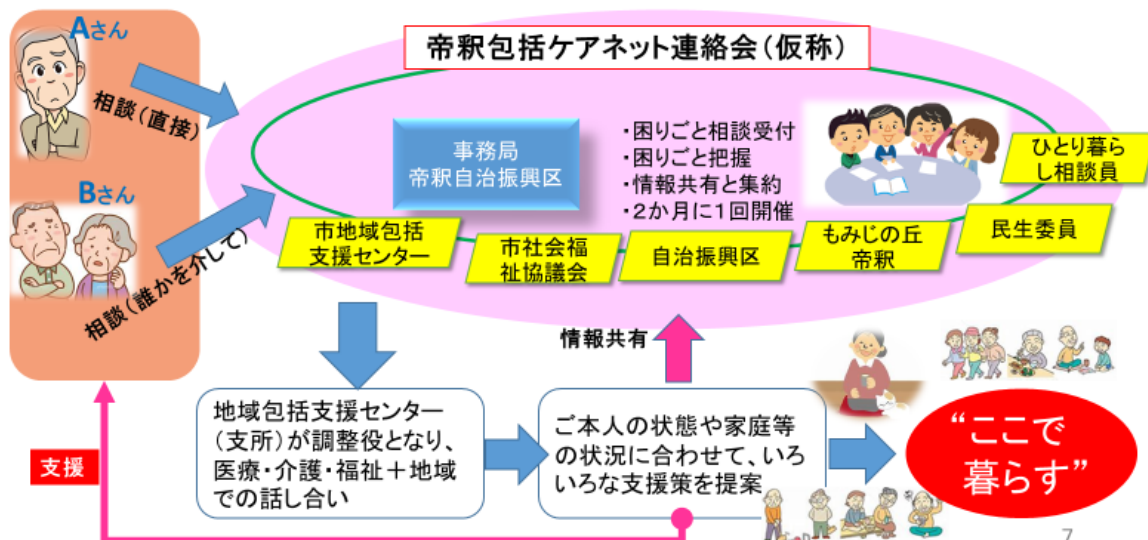
※本人やご家族、地域の支援者を交えた会議もあります

安心して暮らせる提案と具体的な支援

ご本人やそのご家族

6

困ったときは…まず、相談！



(参考) 高齢者応援隊

「住み慣れた地域で、自分らしい暮らしをできるだけ続けたい」という想いを支えます。

作業	内容	備考	料金
草刈り	刈払い機の作業	家の周り、墓地	1,500円
草の撤去	撤去先はその都度相談	家の周り、墓地	1,000円
家庭菜園の軽作業	耕作、草取り等		1,000円
木の剪定	庭木等の剪定作業	家の周り、墓地	1,300円
除草剤散布	除草剤は依頼主が準備	家の周り、墓地	1,000円
精米	コイン精米機を利用	利用料は依頼主負担	1,000円
刃物砥ぎ	包丁		300円
家具の移動	家屋内の配置換え	作業前に相談する。	1,000円
パソコン関係サポート	環境設定、動作診断		1,000円

【料金】 いずれも1時間当たりです。

但し、精米は1回あたり、刃物砥ぎは1丁あたりです。

【対象者】 原則、1人暮らし及び2人暮らし世帯で、一方の年齢が75歳以上の方です。ただし、対象者となっている方以外でも相談に応じます。
申し込み先：帝釈自治振興センター 電話：6-0055



8

(参考) 帝釈自治振興区見守り活動

1. 取り組み内容

高齢者が住み慣れた地域で、孤立せず、安心して地域で生活できるよう、普段の見守り及び災害発生時等の安全確認・避難支援を行う。

2. 対象者

75歳以上の1人暮らしの者、又は、75歳以上の者のみで生活されている世帯の者。ただし、上記に該当しない者でも、各支部で声掛けが必要と認めた者を含む。

3. 実施者

支部長、地区長、社会福祉部員、その他支部長が必要と認めた者。
実施者は正・副の2名体制とする。

4. 具体的活動

- ①見守りは、原則週1回程度とし、その他随時行う。
- ②対象者の居宅に新聞・郵便物等が滞留していないことの確認、又洗濯物、電灯の点灯等で在宅確認を行う。
- ③災害時「高齢者等避難」レベル3、大雨警報、洪水警報が発令された場合、電話等で安全確認を行うとともに、避難される場合は、援助する。又、状況を振興区に報告する。
- ④「避難指示」レベル4が発令された場合は、避難の援助を行う。

5. 実施計画の見直し

対象者、実施者については、毎年度当初に見直しをするとともに、随時修正するものとする。

6. 自治振興区の役割

自治振興区事務局は、見守り運動の実施状況を把握するとともに、避難所開設時には、各支部の避難状況などを把握するとともに、各種の支援を行うものとする。

7. 秘密保持の義務

見守り活動の実施に当たっては、個人の権利・利益を侵害することのないよう個人情報を適切に取り扱うものとする。

(令和4年10月13日)



9

(参考) 見守り活動実施一覧表

令和6年度

令和6年度帝釈自治振興区見守り活動実施一覧表

番号	支部	見守り対象者	見守り実施者		センリン 地図ページ	備考
			正	副		
0	帝釈支部				34-G-1	
2	帝釈支部				34-G-1	
3	帝釈支部				34-G-1	
4	帝釈支部				54-B-1	
5	未渡支部				12-C-3	
6	未渡支部				21-B-3	
7	未渡支部				33-E-5	
8	未渡支部				33-C-4	
9	未渡支部				21-E-1	
10	未渡支部				21-F-1	
11	未渡支部				21-F-1	
12	未渡支部				21-F-1	
13	未渡支部				21-F-1	
14	竹渡支部				44-D-2	
15	竹渡支部				44-C-2	
16	竹渡支部				11-F-1	
17	竹渡支部				32-G-3	

10

(参考) 見守り活動実施一覧表



助け合いのできる地域

①助言
みんな助け合いでいい。
認知症の方とよく話す。
近所の人と話し合ったりすることがわかる。一生、
外の人も同じように話し合えるように。
②助言
自分にできることを。
認知症になったら手助けを頼まないように。
楽しんで色々な所に連れて行ってほしい。
下の世話も自分でする。
③支援
時間がきてくれると思うが、介護料は払っても
もらえないのが心配。
認知症ケア専門士活動に期待しています。
気をつけて見守ってください。
④通学
同じ車ばかり言うが、初めてのよう聞き方を。
自分の気持ちをわかって欲しい。
⑤学習
認知症になる前にならない様に学習会に参加する。
認知症とは？



認知症、認知症になりたくない、そして地域・家族みんな、
で、人ごとではなく自ら考えよう。

①家族
家族の理解になりたくない。
家族との関係
家族は近所へといかに強し力を求めて欲しい。
別にいいからいいよう。みんなで行くで来る事をやりたい。
②地域
認知症の人の話をあまり聞かない。
知らないでいい。
家で暮らしたい。
健康が、年金など声をかける。
行く先を聞く。
③地域
認知症の人がいたら、その家族の一員になり。
認知症の人がいたら、その家族の一員になり。
認知症の人がいたら、その家族の一員になり。
認知症の人がいたら、その家族の一員になり。

まちづくり学習会
帝釈公民館 h20.12.19

どういふ手助けがあれば
認知症になっても、この地域で
いきいきと暮らしていけるでしょうか

心のつながり【絆】

①地域の交流
自分のできる行動を取っている間は、十分な時間を取って欲しい。
別に健康の人も交流する。
地域でできる場所がある。
地域でしっかり話ができる。
何でも話せる人がいたらいい。
認知症でも話せる人がいることが嬉しい。
話し相手の十分な時間を取って欲しい。
②サポート
一人暮らしの人は家の中の様子を知った人がいればよい。
介護の時間を減らしてもらえたらいい。
家族がいなくてサポートしてくれる（話し相手など）
言葉の整理をしてくれる人が必要。
③やさしくして
やさしくしてはいい。
④地域
早く認知の専門の知識が欲しい。
⑤経済的支援
経済的に支えがあればいい。経済的な援助
が欲しい。
自分が認知症になったら家族のところで暮らしたい。
自宅で暮らしていけるような環境を作りたい。
⑥医療
専門的な医療の充実



私が認知症になったら、私のことをわかって、優しく
見守って、できない事は手伝ってもらえる地域で
あって欲しい。

①家族
認知症になったら、私のことをわかって、優しく
見守って、できない事は手伝ってもらえる地域で
あって欲しい。
②地域
認知症になったら、私のことをわかって、優しく
見守って、できない事は手伝ってもらえる地域で
あって欲しい。
③家族
認知症になったら、私のことをわかって、優しく
見守って、できない事は手伝ってもらえる地域で
あって欲しい。
④地域
認知症になったら、私のことをわかって、優しく
見守って、できない事は手伝ってもらえる地域で
あって欲しい。



11

ご清聴ありがとうございました。



12

みんなつながる 地域交流会

～市民活動等報告会～

◆地域包括ケアの事例発表

西城自治振興区

西城自治振興区スローガン

安心・安全で元気なまちづくり

安心	常会ごとに小地域サロン(集まりの場)をつくる	【環境福祉部】
安全	各自治会で地区防災計画の策定	【総務広報部】
元気	ドローンサッカーの魅力で若年層と地域の つながりや絆を創出する	【地域振興部】

西城自治振興区組織図



環境福祉部の活動

令和5年度

地域で取り組む地域包括ケアシステム
西城自治振興区研修会を11月24日、
12月19日の2回実施

「今 なぜ地域包括ケアなのでしょう
か?！」
～地域だからできること 地域でなけ
ればできないことを共に考えよう～

講師:庄原市社会福祉協議会
会長 上田 正之 様



環境福祉部の活動

令和6年度

・庄原市の地域包括ケアシステム、庄原市の
現状と取り組みの話し（8月23日）

・認知症サポーター養成講座(11月29日)

・庄原版終活ノート「いしかたノート」に
ついて(1月29日)

講師:庄原市役所 生活福祉部
高齢者福祉課 地域包括支援センター
主幹 清水めぐみ 様
保健師 横山美和子 様
保健師 末廣司 様



環境福祉部の活動

令和7年度

・庄原市社協第3次地域福祉活動
計画からの社会福祉協議会の取組
について研修（9月25日）

・小地域サロンをつくっていく意
義を深めるため意見交換
(11月27日、1月29日)

講師:庄原市社会福祉協議会 東部
地域事務所次長 鹿川晴美様
地域福祉コーディネーター
周藤美佳様



西城自治振興区を構成する14の自治会

平成24(2012)年10月1日現在			令和5(2023)年10月1日現在					
自治会名	人口	世帯数	人口				高齢化率	世帯数
			0-19	20-64	65+	計		
五町自治会	409	171	24	89	157	270	58%	130
五日市公営会	284	120	25	77	111	213	52%	108
大佐村	202	55	30	53	89	172	52%	68
入江自治会	222	85	29	77	79	185	43%	78
栗自治会	185	64	7	45	74	126	59%	52
大戸自治会	82	35	0	12	27	39	69%	25
平子自治会	276	103	18	75	131	224	58%	95
中野1区自治会	365	133	62	115	117	294	40%	132
みこと自治会	372	125	45	126	123	294	42%	117
さんむら	61	16	2	18	24	44	55%	15
比婆山自治会	186	65	15	41	77	133	58%	59
八島自治会	310	112	32	72	146	250	58%	111
「神話の里」くまの	105	36	4	20	45	69	65%	33
今節会	337	118	15	100	143	258	55%	110
計	3,396	1,238	308	920	1,343	2,571	52.2%	1,133



西城自治振興区各自治会の行政区(常会)

自治会	行政区	自治会	行政区	自治会	行政区	自治会	行政区	自治会	行政区
五町	横町1 横町2 本町 中町 十日市下 十日市中 十日市上 明神町1 明神町2 明神町3	大佐村	大佐下 大佐上 大佐沖	平子	奥名上 奥名下 中平子 土井原 竹原下 竹之内内 丑之河	さんむら	小原 大原山 福山	「神話の里」くまの	長者原 下尺田 中尺田 上尺田
五日市公営会	五日市1 五日市2 五日市3 五日市中 中央区 五日市上	入江	小別当 ひの川 入江 約場 栗	中野1区	我利 我利寺 荒原住宅 中野住宅	比婆山	下今西 別所 田島 上今西 今西住宅	今節会	塩田 下本谷 本谷陽 本谷 寺谷 三田 二本新 黒谷下 黒谷上 中迫
		大戸	大戸1 大戸2	みこと	有田 本郷 口六	八島	八日市下 八日市上 清正 新地 日南 小原谷 重国谷		

目的:常会ごとに小地域サロン(集まりの場)をつくる

すでに活動されている「小地域サロン」

麻田サロン(五町自治会:明神町)



これからの取り組み

「民生委員・児童委員」「ひとり暮らし高齢者等相談員」「社会福祉協議会」
「西城自治振興区14自治会」が連携していくこと

- ・地域の中で誰ひとりとして孤立させない。
- ・ご近所とのつながりを大切にすることは災害時には命を救う。犯罪には地域の目が抑止力になる。

小地域サロンをとおして何でも話し合える関係づくり
だからこそ、ひとつでも多く
できれば全常会に小地域サロンを作ること！

地域包括ケアシステムとは

地域 みんなでお互いの暮らしを支え合うこと

ご静聴ありがとうございました。



令和6年度

自治振興区 活動促進補助金

実績報告書



1 団 体 名	西城自治振興区
2 事 業 名	ドローンサッカーin 西城～次代を担う人材育成と多世代交流を目指して～
3 事 業 費	2,156,204 円（うち補助金：1,724,000 円, 自主財源 432,204 円）
4 事 業 内 容	○ドローンサッカーの体験会の開催 ・西城自治振興センターで開催された講座・交流会での実施 ・サロンでの実施 ・各自治会主催の敬老会で実施 ・地域振興部会での実施 ○関係機関と共催した体験会の実施 ・「ドローンサッカー体験 in 西城」の実施 ・広島県立体育館での体験会（令和 8 年 2 月 28 日実施予定） ・広島県子ども会健全育成大会（備北大会）での体験会 ・広島国際学院高校での体験会 ・西城放課後児童クラブでの体験会 ○各種イベントでの PR ・さくらフェスティバル、広島県立大学庄原キャンパス学園祭（白楊祭） ○ドローンサッカーの機器のメンテナンス ○ドローンサッカー普及を中心的に担う地域マネージャーの募集及びスタッフの育成
5 波及効果	・令和 6 年 9 月から令和 8 年 1 月までで、ドローンサッカー体験会を 25 回実施した。参加者は 558 名、体験者は 434 名で、月平均参加者は約 31 名、体験者数は約 24 名だった。 ・令和 6 年度西城自治振興センター利用者数は、6,775 名で令和 5 年度の 4,204 名を上回っていた。 ・令和 7 年度西城自治振興センター利用者数は、令和 8 年 2 月 1 日現在で、4,226 名だった。 ・ドローンサッカー体験会では、10 歳の子どもから 70 歳代の方まで幅広い年齢層の方が楽しまれた。アンケートでは、また体験したいという回答が多かった。
6 活 動 写 真	   

みんなでつながる地域交流会 市民活動報告会

ドローンサッカーin西城

～次代を担う人材育成と

多世代交流を目指して～

西城自治振興区

地域の現状・課題

人口減少による少子高齢化

平成24年10月1日 3,396人⇒令和5年10月1日 2,571人

▲825人

高齢化率 65歳以上 52.2%

世帯数の減少

平成24年10月1日 1,238世帯⇒令和5年10月1日 1,133世帯

▲105世帯

地域の現状・課題

長引いたコロナ禍の影響

- 地域行事の延期や中止
- 秋祭りや敬老会の単独実施が困難
- コミュニティの低下
- 人と人との繋がりや絆の薄れ
- 地域の活力の喪失

課題を克服するためには？

若者による「まちづくりへの参画」

世代間交流による「笑い声」と「地域の活気」

自治振興区を中心

「賑わいの創出」や「担い手の確保」

事業の目的

○「若者の地域づくりの参画」と「多世代間交流の創出」

○人と人との繋がりや絆

○地域の活況・・・賑わい(元気) と活気(活力)



期待される事業効果

○体力に関係なく子どもからお年寄りまで参加できる

○継続的な多世代間交流

○ゲームとしての継続性、映えや話題性

○参加者による拡散性(SNS等)

○ドローン技術への関心

○学生や保護者を含めた指導者の育成



取り組んだ事業内容その1

○ドローンサッカー体験会の開催

- ・西城自治振興センターで開催された講座・交流会での実施
- ・サロンでの実施
- ・各自治会主催の敬老会での実施
- ・地域振興部会での実施

○関係機関と共催した体験会の実施

- ・「ドローンサッカー体験in西城」の実施
- ・広島県子ども会健全育成大会(備北大会)での体験会
- ・広島国際学院高校での体験会
- ・西城放課後児童クラブでの体験会
- ・広島県立体育館での体験会(令和8年2月28日実施予定)

取り組んだ事業内容その2

○各種イベントでのPR

- ・さくらフェスティバル
- ・広島県立大学庄原キャンパス学園祭(白楊祭)

○ドローンサッカーの機器のメンテナンス

○ドローンサッカーの普及を中心的に担う地域マネージャーの募集及びスタッフの育成

波及効果

○令和6年9月から令和8年1月までの17か月の間に、ドローンサッカー体験会を25回実施

○参加者総数、558名。体験者総数、434名。月平均、参加者数約31名、体験者数約24名

○西城自治振興センター利用者数は、令和5年度4,204名から、令和6年度6,775名、令和7年度2月1日現在、4,226名

○体験者は4歳の子どもから70代の方まで気軽に参加

○参加者アンケートでは、また体験したいという方多数

今後の展望

○地域マネージャの確保

○スタッフの育成

○小・中学校や高校・大学、他の自治振興区等、活動を市内
全域

○地元企業等(eロボティクス広島、観光協会、庄原青年会
議所、西城みらいラボ)、テレビ新広島(日本ドローンサッ
カー連盟広島支部)との継続した事業展開



ご清聴、ありがとうございました

1 団 体 名	庄原市高自治振興区
2 事 業 名	交流とにぎわいの暮らしの場づくり（住民の縁側）整備作業（高幸せ計画具現化事業）
3 事 業 費	1,677,757 円（うち補助金：1,342,000 円, 自主財源 335,757 円）
4 事 業 内 容	「交流とにぎわいの暮らしの場（住民の縁側）づくり整備事業」 駅前周辺エリアと自治振興センターエリアを新たな交流とにぎわいの暮らしの場として設定し、常にかかれた「住民の縁側」として今回は自治振興センターエリアを整備した。 ○自治振興センターエリア 高自治振興センターは住民が気軽に憩い交流できるスペースがないため、屋外に「にぎわいカフェテラス（フリースペース／住民の縁側）」を整備した。従来からのイベントに加え新たにイベントにも取り組み振興センターが住民の楽しみ・生きがい・安心の場となるよう住民活動拠点の充実を図った。 ・にぎわいテラス（フリースペース／住民の縁側）の整備 鉄筋コンクリートの自治振興センター底下に新たに木製の庇（縦 1.7m×横 9.1m高さ 2.739m）と木製デッキ（縦 1.5m×横 9.1m）や机・椅子等を整備した。
5 波 及 効 果	本事業で整備した「にぎわいテラス」は、単なる施設の改修を超え、多世代が自然に集い、新たな活動が生まれる「高自治振興区の象徴的な交流拠点」として機能し始めています。 ① 多世代交流の創出と次世代の育成 テラス活用プロジェクトの第一弾として、高小学校 6 年生による「ワンデイカフェテラス」を開催しました。児童が自ら作ったおやつと「たからコーヒー」を地元の高齢者に振る舞うこの取り組みは、子どもたちにとっては地域貢献の達成感を、高齢者にとっては次世代との触れ合いによる生きがいを生む貴重な機会となりました。この様子は中国新聞にも掲載され、地域の活気ある姿を広く発信する契機となりました。 ② 既存行事の満足度向上とコミュニティの深化 「狼煙上げ交流会」や「年末大掃除」といった従来の地域行事において、テラスを憩いの場として組み込むことで、行事の質が大きく向上しました。 心地よい空間による対話の促進：開放感のある屋外で食事やコーヒーを楽しむ時間は、参加者から「気持ちが良い」と非常に好評で、自然と会話が弾む光景が見られました。 「ついでに立ち寄れる」場の定着：行事の前後で「ついつい話が盛り上がる」場となったことで、住民同士の心の距離が縮まり、連帯感の醸成に大きく寄与しています。 ③ 「住民の縁側」としての定着と今後の展望 当初の狙い通り、自治振興センターが「用事がある時だけ行く場所」から、「誰かと会える楽しみ・安心の場」へと進化しつつあります。整備された木製デッキや庇（ひさし）が、季節や天候を問わず住民を迎え入れる「住民の縁側」として機能し始めており、今後はこの場所を起点に、住民の主体的な活動がさらに波及していくことが期待されます。
6 活 動 写 真	 

ウッドデッキ 高の住民憩う



庄原市高町の高自治振興センターにウッドデッキがお目見えした。完成記念として3月下旬にカフェイベントがあり、多くの住民でにぎわった。

春の陽光に照らされたデッキ（奥行き1.5㍎、幅9㍎）は、夫婦や友人同士で連れ立った住民で満員に。高地区のオリジナルコーヒー「タカラコーヒー」を片手に、友人との会話を楽し

高自治振興センターに完成したウッドデッキで談笑する住民たち

庄原 完成記念カフェイベント

んだ近くの天野武子さん（84）は「家に招くと大変だけど、ここはちょうど良い」と楽しんでいた。

高自治振興区によると、カフェがない地域で住民が集まれる場所をつくろうと企画し、2024年11月に完成。厳しい寒さのため、記念イベントは春まで待った。同振興区事務職員の中倉麻衣子さん（43）は「気軽に使っていただき、笑顔あふれる場所にしたい」と期待していた。

（菊池諒）

1 団 体 名	庄原市比和自治振興区
2 事 業 名	パーティーシェード活用による行事・イベント活性化事業
3 事 業 費	350,768 円（うち補助金：280,000 円, 自主財源 70,768 円）
4 事 業 内 容	比和自治振興区は備北商工会比和支部や NPO 法人比和まちミュージアムと比和ゆめ街道ネットワークを結成し、地域の活性化を目指して「JAF ドライブスタンプラリーの取り組みやつなぐ棚田遺産三河内の棚田のアピール」などと地域行事・イベントを関連付けて内容の充実を図っているが、スタッフや出店者の高齢化などにより、大きくて重たい従来型のテントの準備片付けが負担となっている。そこで、誰でも簡単に設営できる小型の簡単テント（パーティーシェード）を購入し、スタッフや出店者の負担を軽減し、さらに農産物・特産品の販売促進のほか、比和体験の提供や比和の魅力を発信する場として活用するために次の物品を購入した。 簡単テント等の購入目的 ①誰でも簡単に準備・片付けができるようにする。気軽に出店できる環境をつくる。 ②見栄えのする簡単テントを揃えイベント会場の雰囲気づくりを行う。 ③インスタ映えする会場をつくり来場者による情報発信を促す。小型テントなので配置を工夫できる。 ④救護テントや緊急時の個室テントとして使う。 購入物品 1（テント関連品） ◎コールマンパーティーシェードライト/300+（4 張）・専用サイドウォール（16 枚） ◎コールマンインスタントバイザーシェードⅡ/L+（4 張）・専用サイドウォール（16 枚） 購入物品 2（電気機器や屋外用音響システムの使用で使用する屋外用コードリール） ◎屋外用延長コードリール 100V15A
5 波 及 効 果	購入初年度の活用（2024 年 8 月から） 役員会、広報誌、SNS 等でテント購入を紹介し、テント設営講習会を実施した。 ・テント設営講習会参加者（各自治会代表、スポーツ協会、比和社協、振興区地域活性化部員）13 名 ・振興区関連行事で使用（グラウンド・ゴルフ大会、ミニ比和に集まるシェ）5 張 ・三河内地域自治会へ貸出（ぼにばな縁日会の染め物体験）2 張 購入次年度の活用（2025 年 4 月から） 役員会で比和に集まるシェや山開きの紹介を兼ねてテントの貸出について説明し、各自治会で周知することを依頼。行事後テント貸出についての問い合わせが 5 件。 ・テント設営講習会（各行事のスタッフや参加者へ説明しながらテント設営）延 30 名 ・振興区関連行事で使用（比和に集まるシェ、吾妻山山開き、ミニ比和に集まるシェ、やまびこ祭り、振興区グラウンド・ゴルフ大会）10 張 ・三河内地域自治会へ貸出（ぼにばな縁日会及びドライブスタンプラリーイベント）3 張 ・三河内地域自治会へ貸出（三つ子山祭り）2 張 ・スポーツ協会比和支部へ貸出（老人クラブペタンク大会）2 張 ・地域グループへの貸出 2 件（グループ行事）2 張 ・コードリールは比和の盆踊りや山開き、振興区のグラウンド・ゴルフ大会等の音響で使用。 ○「簡単に準備ができ片付けも楽なので使い便利が良い。」とスタッフにも出店者にも好評である。
6 活 動 写 真	    

1 団 体 名	庄原市総領自治振興区
2 事 業 名	移動手段検討・実証実験事業
3 事 業 費	150,668 円（うち補助金：120,000 円, 自主財源 30,668 円）
4 事 業 内 容	全世帯を対象に、移動手段及び買い物に関するアンケート調査を実施し、これをもとに地域全体で移動、買い物について、会議等を開催し、検討していく。 他に公共交通空白地有償運送事業を実施している先進地の事例などを参考に、地域にあった移動手段を検討する。 総領地域外での高齢者等の買い物、通院について支援方法を検討し、実証実験を行う（未実施）。
5 波 及 効 果	
	移動手段及び買い物に関するアンケート調査の結果から明らかになった課題を会議で検討し、一定の方向性（住民主体の生活交通体系の見直し案）を見出すことができた。
6 活 動 写 真	
	なし



令和6年度

**まちづくり
応援補助金**

実績報告書



1 団 体 名	NPO 法人東海つばめ学習会広島支部
2 事 業 名	市内中高生・大学生・地元企業・庄原交流会
3 事 業 費	371,180 円（うち補助金： 300,000 円,自主財源 71,180 円）
4 事 業 内 容	県立広島大学や他大学の学生による「大学ブース」と、庄原市の活動や見どころをPRする「庄原ブース」、地元企業による「企業ブース」を設け、学生、団体、企業の交流の機会を提供する。 進学や就職を考える中・高生やその保護者は学生の体験談や、就職に関する情報を得ることができ、合わせて「庄原ファンクラブ」の加入促進や「庄原の就職・観光情報」を発信し、進学や就職で地域を離れる人も将来的に庄原に住んでもらえるよう情報を提供する。 また、県内他大学の学生と、庄原市民との交流の場を設け、企業情報などのPRにより、若者を庄原市に呼び込むため、交流会を実施し、市外の学生に庄原の魅力を知ってもらう機会とする。
5 波 及 効 果	大学生のリアルな受験事情や大学生生活の体験談を聞くことで、進学先に迷っている学生に対して明確な目標を立てることができる。 地元企業や団体の代表者と学生が交流し、今後も庄原市に関わる交流人口を増やすきっかけづくりとするほか、新たな事業展開や市内企業の人材確保につながる。 さらに、市内の高校生や中学生だけでなく県立広島大学や他大学の学生に対して庄原の企業や庄原ファンクラブなどのPRができ、交流人口が増えることが期待される。
6 活 動 写 真	

みんなつながる地域交流会～市民活動報告会～

2026年3月1日（日）

NPO 法人名古屋つばめ塾

市内中高生・大学生・地元企業・
庄原交流会



流れ

1. 無料塾について
2. 本活動内容
3. 次年度の活動

昨年に名古屋つばめ塾は解散し

新しく、
「NPO法人 東海つばめ学習会」

無料塾について

- ・ 有料塾へ行きたくても行けない・・・
- ・ 勉強したくても勉強する環境がない・・・



場所を借りて、子どもたちに
無償で勉強を教えている。

NPO法人東海つばめ学習会（庄原教室）



< 対象 >
小学校1年生
～ 高校3年生

学習意欲のある子
であれば誰でも

課題

庄原市の中高生が
オープンキャンパスへ行きにくい

庄原市から市外の大学へ

> 広島大学までの道のり <
片道→約3時間
(約2500円)

> 福山大学までの道のり <
片道→約5時間
(約3000円)



課題

庄原市の中高生が
オープンキャンパスへ行きにくい



市外の大学生を庄原市へ
集めればいいじゃないか



コレクトキャンパスとは



複数の大学が集まって、大学説明会をする。







コレクトキャンパスを行った趣旨

福山大学→キャリアデザインゼミ
広島大学→起業部
福山市立→保命酒BAR、GOOHATS
広島修道大学→宮島観光親善大使

自分のしたいことをしている 大学生

コレクトキャンパスに参加して

高校三年生

・・・「第一志望への気持ちが強くなった」

高校三年生

・・・「志望大学について相談することが出来たためになった」

保護者

・・・「高校生の子どもに聞かせたかった」

高校二年生

・・・「学部しか決まっていなかったがもっと大学について調べてみようと思った」

う・まいんど(IN庄原)



課題

県立広島大学の学生も
県内の大学生も庄原のことを
あまり知らない

課題

学生が
庄原のことを知らない



庄原にいる大人との交流会が
あれば知るきっかけとなる

う・まいんどの趣旨

「島根で行われている、異業種交流会」

うまいものを食べ、
マインドを高める



- ・ 学生 × 学生
- ・ 学生 × 社会人
- ・ 社会人 × 社会人

新たな事業を
生み出すきっかけに

異業種交流会に参加して

県立広島大学学生

・・・「庄原のイベントにもっと参加したくなった」

県内大学生

・・・「自分の住んでいる場所でもイベントを開催して欲しい」

社会人

・・・「県内大学生とのつながりができ、次のイベントのきっかけになった」



高校生との相談or説明



高校生との相談or説明



高校生との相談or説明



高校生との相談or説明



1つでも多く選択肢を増やして欲しい

必要であるイベントをこれからも開催していきたい

1 団 体 名	東城みらいプロジェクト
2 事 業 名	—コドモとオトナの遊び場づくり—
3 事 業 費	875, 113 円（うち補助金：435, 000 円, 自主財源 311, 313 円、事業収入：128, 800 円）
4 事 業 内 容	
R6 年 8 月 18 日(日)TOJY0 ファミリーコンサート開催 会場：東城自治振興センター プロの演奏家や全国各地で活躍する歌のお姉さん、キャラクターによる「リトミックコンサート」、シンガーソングライター・家族相談士による「0 歳からの親子コンサート」の二部構成によるファミリーコンサートを開催。ワークショップ、キッズスペースや授乳室などを設けた。 参加者：大人 100 名子ども(中学生以下)50 名 R6 年 9 月 7 日(土) 東城保育所ありすの森「ニコニコフェスタ」 親子行事の日に、手作り楽器を使った親子でリズム遊びとふれあいベビーマッサージを行った。 参加者：乳幼児 28 名保護者 40 名 R6 年 11 月 28 日(木)東城ガールズコレクション 会場：社会福祉法人恵仁会 介護老人保健施設こぶしの里 介護施設に入所、通所中の 74～99 歳の 12 人によるファッションショー開催のサポート。演奏や音響照明、動画制作などで関わった。 参加者：出演者 12 名 入所・通所者 40 名 R7 年 1 月 24 日(金)東城小学校 PTA 講演会「命の参観日」「交流会」 会場：東城文化ホール PTA 教育講演会の開催依頼を受け実施。全校児童、保護者、関係者を招待し、講演会とミニコンサート、その夜に交流会を行った。 参加者：230 名	
5 波 及 効 果	
地域外からの来訪促進と観光誘致 ファミリーコンサートでは、庄原市や近隣市町から約 150 名の親子が来場し、東城町への新たな来訪のきっかけを創出。地域外からの集客により、町の魅力発信としての可能性が広がった。 地域内連携の強化と住民の主体的参加 町内の団体・施設・住民が協力し、町全体でイベントを盛り上げる体制が形成された。 教育・保育分野への波及 ファミリーコンサートや講演会・交流会を通じて、教育・保育施設からの問い合わせが増加。特に講演会では、「相談することの大切さ」をテーマにした内容が、家庭内の対話促進や地域コミュニティの形成に寄与。 ニコニコフェスタでは、乳幼児と保護者が安心して参加できる場を提供し、子育て支援の充実にもつながった。 今後の事業展開への足がかり 各イベントの成功が、次年度以降の企画や他団体による自主的な取り組みのモデルケースとなり、地域イベントの継続的な発展を後押し。	



1 団 体 名	東新会
2 事 業 名	まちづくりコンテンツ推進事業
3 事 業 費	1,932,529 円（うち補助金：市 627,000 円、県補助金 1,000,000 円、自主財源 55,529 円）
4 事 業 内 容	① 文化財予定建物（令和 7 年 2 月国登録有形文化財として登録）を活用する事業。 ・定期的に音楽カフェ開催、商店街でのまち歩きつまみ食いツアー、周辺でのマルシェの開催に取り組む ・地域商店等の賑わいづくりやまちづくりコンテンツ推進のために、市内外の人々と交流促進の場として建物を活用した地域の情報発信に取り組んだ。 ② 歴史的建造物を文化財としての位置づけと公開活用。 ・新たに国登録有形文化財が誕生した（令和 7 年 2 月） ・文化財登録前後に、建物の価値の向上と地域としての位置づけを確立させるために、建物関連のイベントを開催しながら公開活用に取り組んだ。また地域の文化財とも連携にも取り組んだ。 ③ 東城市街地の空き家の再生活用。 ・まちづくりの一環として、所有者や地域住民、大学生、ヘリテージマネジャー等専門家等と市内では貴重な木造 3 階建ての保存再生利活用に取り組みながら空き家再生に携わる人材の育成にも取り組んだ。
5 波 及 効 果	多様なまちづくり活動を市内外の人々と協同で実施してことで、街道東城路周辺のまちと人の営みに活力が与えられ参加者も活力を貰うことができた。また、活動を通じて地域が抱えている様々な課題も解消されていく効果がもたらされた。 空き家建物（令和 7 年 4 月複合施設としてオープン）を、新たな観光資源や交流拠点に向けて整備したことで、数年続いたコロナ禍で止まっていた様々な営みの停滞打破と地域の人々のふれあいや交流機会の増大が見込まれる。今回の様々な活動が継続的に続いていけば、地域住民や商店街に良い化学反応が起きることが期待できる。また、今回の取り組み事例で全国的な課題でもある空き家の再生利活用のモデルケースになると思われる。結果として、私たちは、まちづくり団体として、引き続き住民の社会活動や地域活動をサポートしていくことで往年の活力のあった「街道のまち」としての人の営みや商店街の活力のある姿を取り戻せると思っています。
6 活 動 写 真	